

# 外国人が用いた待遇表現に対する 中国地方在住の日本人の評価

宮岡弥生・玉岡賀津雄・浮田三郎

## 要 旨

本研究では、聞き手としての日本人から見て適切だと感じられる外国人発話者の待遇表現を明らかにするためにアンケート調査を行った。初対面と親しい間柄の2つの場面について、年上と年下の外国人女性が、「行くの」、「行くんですか」、「行かれるんですか」、「いらっしゃるんですか」という表現を使った場合の適切度を5段階で日本人が評定した。最も待遇価値の高い「いらっしゃるんですか」は、すべての状況において最も適切な表現とはみなされなかった。むしろ、中間的な待遇価値の「行かれるんですか」と「行くんですか」が適切とされた。「行くの」という表現も、親しい間柄では、好まれる表現であった。また、「行くの」を外国人が初対面で使っても、日本人は寛容に受け取っていることが分かった。これらの結果は、狭義の敬語表現ばかりでなく、待遇価値と心理的な距離感の視点から待遇表現を広く捉え、状況に応じた待遇表現指導をしなければならぬことを示唆している。

【キーワード】 待遇表現, 待遇価値, 外国人発話者, 表現の適切度, 表現に対する寛容度

## 1. はじめに

日本語を学ぶ外国人にとって、敬語、広く言って待遇表現の習得は難しいということがしばしば指摘されている(辻村, 1989)。日本語の待遇表現の難しさは、語形そのものだけでなく、対人関係を考慮しながら場面に応じて使い分けなくてはならないところにある。こうした敬語用法を持たない言語を母語とする日本語学習者の中には、敬語を脅威と捉えている向きさえある(Niyekawa, 1991)。ところが、このような敬語の難しさにも拘らず、外国人学習者の大多数は「丁寧でありたい」と考えている(水谷, 1989)ようである。実際、日本語教師の側も、やや丁寧と感じられるような表現を教えている場合が多い(例えば、立松, 1989など)。しかし、外国人が敬語を用いる場合に、誰に対して、どの程度の敬語表現が適切であるかを聞き手である日本人の側から捉え、日本人が外国人の敬語をどう感じているかということについて詳細に調査した研究は少ない。

外国人の日本語能力に関する調査(文化庁, 1995)によると、日本人の一般的な態度として、「外国人だから、意志が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない」(58.6%)とか、「外国人だから意志が通じさえすればどんな日本語でもかまわない」(24.2%)と考える日本人が多いようである。「外国人であっても、日本人と変わらない日本語を話すべきである」(12.7%)という日本人は、むしろ少ない。このように、「丁寧でありたい」と

考えている外国人と、外国人に対して敬語使用の適切さまでは求めていない(荻野・洪, 1992)日本人との間には、少なからぬギャップがある。

そこで、本研究では、「初対面」と「親しい間柄」の2つの発話場面で、発話者が年下・年上の外国人女性である場合に、4種類の待遇表現がどのように日本人に受け取られるかを、質問紙を用いて量的に測定した。そして、設定したそれぞれの条件の下で、日本人から見て適切だと感じられる外国人発話者の待遇表現を明らかにした。さらに、発話者が日本人である場合についても調査し、外国人発話者の場合と比較することによって、外国人発話者が用いた待遇表現に対する日本人の寛容さについて考察した。

## 2. 調査の方法

### 2-1 被調査者

質問紙の回答者である本研究の被調査者は、同じ方言圏に属すると思われる中国地方3県(広島・岡山・山口)に在住する日本人とした。したがって、本研究で得られた分析結果は、これら3県に限定されたものである。被調査者の内訳は、男性271名、女性324名の合計595名である。世代別の内訳は、10代が79名、20代が104名、30代が81名、40代が111名、50代が92名、60代が77名、70代以上が51名である。

### 2-2 手順

質問紙によるアンケート調査を実施した。調査時期は1997年10月1日から11月30日である。本調査では次のような2つの場面を想定して、質問に答えてもらった。場面1は、「あなたが道を歩いていると、見知らぬ女性が近づいてきて、あなたが駅の方へ行くのかどうかを尋ねました。」(以下、「初対面」と表記する。)、場面2は、「あなたは、あなたの家で、家族ぐるみの付き合いをしている女性と二人で雑談をしています。その時その女性が、次の日に開かれるコンサートにあなたが行くのかどうかを、あなたに尋ねました。」(以下、「親しい」と表記する。)である。これら2つの場面で、待遇価値の異なる4つの表現を、発話者の外国人女性および日本人女性が用いたとき、どのように感じるかを被調査者に尋ねた。なお、両場面で用いる待遇表現は、同一のものとした。

待遇表現を構成する動詞として本調査で取り上げたのは、使用頻度が高く場面設定のしやすい「行く」である。この「行く」を用いて、待遇価値の異なる「行くの」、「行くんですか」、「行かれるんですか」、「いらっしゃるんですか」の4つの待遇表現を設定した。これらは、待遇価値は異なるが、相手に「行く」かどうかを尋ねるという基本的意味は同じである。「行くんですか」に類似した待遇表現に「行きますか」があるが、「これからあなたはどこへ行くか」と尋ねる時の表現として、「行くんですか」、「行かれるんですか」、「いらっしゃるんですか」の方が、それぞれ「行きますか」、「行かれますか」、「いらっしゃいますか」よりも使用頻度が高いという調査結果がある(荻野・金・梅田・羅・盧, 1990)ため、本調査では「行くんですか」類を採用した。また、「お行きになる」については、「いらっしゃる」という特定の言い換え形の方が落ち着きが良い(菊池, 1997)ので、採用しなかった。

さらに、本調査においては、待遇表現に対する被調査者の感覚を刺激するために、発話者を女性に限定した。これは、女性の方が男性よりも丁寧な言葉づかいをするという認識

が一般的であるため、発話者が女性である方が、発話者に敬語を要求する度合いが高いと思われるからである。発話者については、前述の「初対面」と「親しい間柄」の2つの場面で、それぞれ「年下の外国人」、「年上の外国人」、「年下の日本人」、「年上の日本人」の4種類の発話者を設定した。従って、発話者の条件は全部で8種類となる。

ただし本研究では、日本人発話者は、あくまでも外国人発話者の比較基準としてのみ扱うので、詳細は記さない。待遇表現に対する感じ方は、‘とても気になる’を1点、‘少し気になる’を2点、‘どちらとも言えない’を3点、‘あまり気にならない’を4点、‘全然気にならない’を5点とし、5段階尺度で測定した。本研究では、これを待遇表現の「適切度」と呼ぶ。

### 3. 調査の結果

待遇表現の適切度について、2(男・女)×4(待遇表現)の計画による分散分析(待遇表現についての反復測定)を行った。詳細な分析に関しては、被験者間要因である男女差は各待遇表現についてダンカン法による多重比較で検討し、被験者内要因である4種類の待遇表現は、直交多項式対比によって男女差を加味して行った。なお、これらの詳細な分析についてのF値は省略した(統計の詳細な説明は、森・吉田, 1992, pp69-175を参照)。

#### 3-1 外国人女性が初対面で用いた待遇表現に対する日本人の適切度

発話者の女性が被調査者と初対面である場合について、被調査者の適切度の平均と標準偏差を表1に示した。

表1 初対面の女性発話者が用いた待遇表現についての男女別適切度

発話者	被調査者の性別	待遇表現			
		いらっしゃるんですか	行かれるんですか	行くんですか	行くの
年下の外国人	男性(n=271)	3.20 (1.42)	3.73 (1.23)	3.57 (1.22)	2.82 (1.35)
	女性(n=324)	3.63 (1.42)	4.02 (1.17)	3.88 (1.19)	3.15 (1.37)
	男女の合計	3.43 (1.43)	3.89 (1.20)	3.74 (1.21)	2.99 (1.37)
年上の外国人	男性(n=271)	3.25 (1.35)	3.68 (1.22)	3.63 (1.20)	3.07 (1.29)
	女性(n=324)	3.71 (1.33)	4.00 (1.15)	3.89 (1.13)	3.31 (1.36)
	男女の合計	3.50 (1.36)	3.85 (1.19)	3.77 (1.17)	3.20 (1.33)
年下の日本人	男性(n=271)	3.42 (1.34)	3.71 (1.21)	3.07 (1.32)	2.15 (1.25)
	女性(n=324)	3.84 (1.26)	4.11 (1.07)	3.08 (1.31)	1.91 (1.10)
	男女の合計	3.65 (1.31)	3.93 (1.15)	3.08 (1.31)	2.02 (1.18)
年上の日本人	男性(n=271)	3.34 (1.36)	3.58 (1.29)	3.33 (1.25)	2.71 (1.35)
	女性(n=324)	3.64 (1.35)	3.91 (1.21)	3.48 (1.27)	2.77 (1.37)
	男女の合計	3.50 (1.37)	3.76 (1.26)	3.41 (1.26)	2.74 (1.36)

注: 括弧外は平均値で、括弧内は標準偏差。

#### 3-1-1 初対面の外国人女性発話者が年下である場合の適切度

初対面の外国人女性発話者が年下である場合の適切度に関する分散分析の結果、男女差 [ $F(1,593)=19.58, p<.0001$ ] および4種類の待遇表現 [ $F(3,1779)=83.72, p<.0001$ ] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の交互作用は、有意ではなかった。4つのすべての待遇表現についてダンカン法による多重比較で男女差を検討した結果、全体的に見て、

女性の方が男性よりも、適切であると判断する傾向が見られた。さらに、直交多項式対比で4つの待遇表現間の適切度を比較したところ、すべての表現間で有意な違いが見られた。ただし、男女差による効果に差はなかったため、待遇表現間の比較には、男女を一律に考えて良い。最も適切であるとされた待遇表現は「行かれるんですか」(M=3.89; 平均値はMで表記する。)であった。2番目は「行くんですか」(M=3.74)、3番目は「いらっしゃるんですか」(M=3.43)が適切な表現であるとされ、最も適切度が低かった表現は「行くの」(M=2.99)であった。要約すると、初対面の年下の外国人女性発話者が、待遇価値の非常に高い「いらっしゃるんですか」という表現を用いることを、本研究の被調査者である日本人は必ずしも適切であるとは感じていないようである。また、「行くの」というぞんざいな表現は、外国人であろうと適切ではないという結果であった。

### 3-1-2 初対面の外国人女性発話者が年上である場合の適切度

同様に、 $2 \times 4$ の分散分析を行った結果、男女差 [ $F(1,593)=16.96, p<.0001$ ] および4つの待遇表現 [ $F(3,1779)=55.21, p<.0001$ ] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の交互作用は、有意ではなかった。3-1-1で述べた発話者が年下の外国人の場合と同様に、女性の方が男性よりもすべての待遇表現において適切度が高かった。

適切度が1番高かったのは、「行かれるんですか」(M=3.85)であった。2番目に「行くんですか」(M=3.77)であったが、双方の表現間には有意差がないので、ほぼ同じレベルの適切度であると言える。3番目に「いらっしゃるんですか」(M=3.50)が適切な表現であるとされた。これは、1番目と2番目の待遇表現と比べて、適切度が有意に低かった。最も適切度が低かった表現は「行くの」(M=3.20)であった。たとえ発話者が外国人で年上であっても、「行くの」という待遇価値の低いぞんざいな表現は適切だとは思われないようである。また、やはり前述の年下の場合と同様に、年上の外国人発話者が待遇価値の非常に高い「いらっしゃるんですか」という表現を用いることを、本研究の被調査者である日本人は適切だとは感じていないようである。

### 3-2 外国人女性が初対面で用いた待遇表現に対する日本人の寛容度

これまで発話者が外国人女性であることを想定して、待遇価値の異なる4つの表現について、日本人被調査者の判定を考察してきた。次に、外国人発話者の用いた待遇表現の適切さをいかに日本人被調査者が判定したかを、日本人発話者に対する判定と比較して「寛容度」を算出し、外国人発話者に対して日本人被調査者がどのくらい寛容であるかを考察する。その方法として、発話者が外国人女性である場合の適切度から、日本人女性が同じ場面で用いた場合の適切度を引いて両者の差を算出し、それを外国人発話者に対する「寛容度」とした。これによって、外国人が用いる待遇表現が、日本人のそれと比べて、どのくらい「寛容」に受け取られるかが数値で分かりやすく表示されよう。なお、比較基準として用いた日本人発話者の場合のデータ分析も、外国人発話者の場合と同じ方法を用いた。4つの待遇表現に対する平均寛容度は、発話者が年下および年上の場合について図1にグラフで示した。プラスの数値は、外国人発話者に対して寛容であることを、マイナスの数値は、寛容でないことを示している。

注：数値は、寛容度の平均および±は標準偏差を示す。

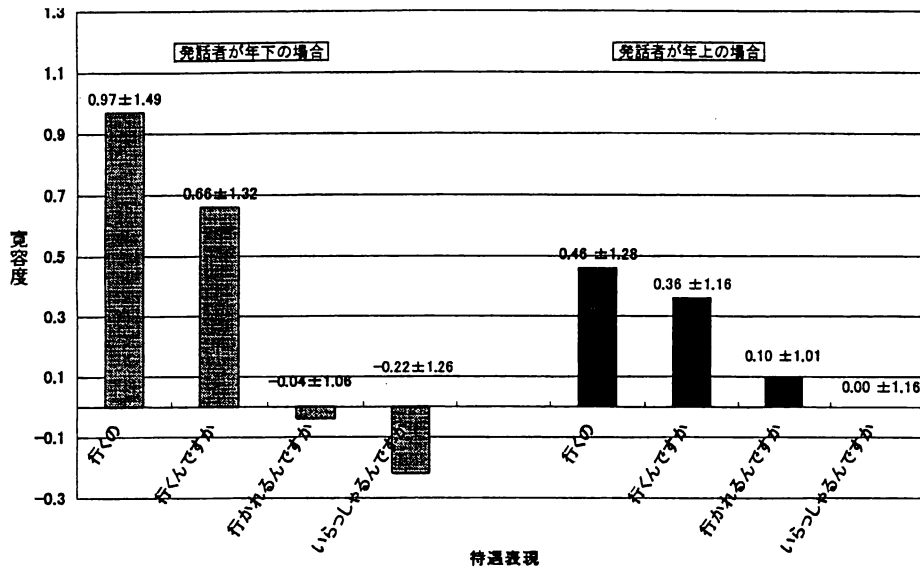


図1 初対面の年下および年上の外国人発話者が用いた待遇表現に対する寛容度

### 3-2-1 初対面の外国人女性発話者が年下である場合の寛容度

以上の手順で算出した寛容度について、男女差と待遇表現をめぐる $2 \times 4$ の分散分析を行った。その結果、男女差 [ $F(1,593)=7.94, p<.0005$ ] および4つの待遇表現 [ $F(3,1779)=140.97, p<.0001$ ] に主効果が見られた。また、待遇表現と男女差の交互作用も有意であった [ $F(3,1779)=10.56, p<.0001$ ]。4つの待遇表現についてダンカン法による多重比較で男女差を検討した結果、「行くの」および「行くんですか」の二つの待遇表現について、女性の方が男性よりも、寛容度が高かった。4つの待遇表現の寛容度について、直交多項式対比で比較した結果、すべての組み合わせで有意な差を示した。以下、それぞれについて述べていく。まず、最も寛容度が高かったのは、「行くの」( $M=0.97$ )である。この表現は、適切度では最も低いものの(3-1-1を参照)、初対面の年下の外国人女性が待遇価値の低い「行くの」という表現を用いた場合、日本語ができないのだろうと考えるのか、とても寛容に受け取られているようである。第2に寛容度が高かったのは「行くんですか」( $M=0.66$ )である。第3に寛容度が高かったのは「行かれるんですか」( $M=-0.04$ )であった。この寛容度は、マイナスの数値ではあるが、限りなくゼロに近い。この表現は、初対面の場面で最も適切であるとされた待遇表現であり、そのため発話者が外国人の場合と日本人の場合とで、日本人被調査者の受け取り方に違いがなかったであろう。むしろ、興味深い結果だったのは、外国人が待遇価値の最も高い「いらっしゃるんですか」( $M=-0.22$ )という表現を用いた場合である。これは、最も寛容度が低く、マイナスの数値を示した。つまり、「寛容度」から見ても、初対面で、年下の外国人女性が「いらっしゃるんですか」という非常に丁寧な表現を用いることについては、被調査者の日本人はかなり違和感を覚えたようである。

### 3-2-2 初対面の外国人女性発話者が年上である場合の寛容度

それでは、初対面の発話者が外国人で年上の女性であるかどうか。同様に、男女差および待遇表現に関する $2 \times 4$ の分散分析を行った。その結果、男女差の主効果は有意ではなく、待遇表現の主効果は有意であった [ $F(3,1779)=28.45, p<.0001$ ]。待遇表現

と男女差の交互作用は有意ではなかった。4つの各待遇表現には、男女差はないので、寛容度には、待遇表現のみに違いが見られたことになる。個々の表現について、直交多項式対比で検討した。その結果、最も寛容度が高かったのは「行くの」(M=0.46)で、2番目に高かったのが「行くんですか」(M=0.36)であった。しかし、双方の表現間には有意な差はなく、両者は同じレベルの寛容度である。第3は「行かれるんですか」(M=0.10)で、第4が「いらっしゃるんですか」(M=0.00)で寛容度はゼロであった。つまり、「いらっしゃるんですか」という待遇表現は、年上の日本人が用いても年上の外国人が用いても、聞き手である日本人被調査者の感じ方に差はないということである。

### 3-3 外国人女性が親しい間柄で用いた待遇表現に対する日本人の適切度

次に、発話者の女性が被調査者と親しい間柄である場合について、表2に被調査者の適切度の平均と標準偏差を示した。

#### 3-3-1 親しい外国人女性発話者が年下である場合の適切度

適切度についての2×4の分散分析の結果、男女差 [ $F(1,593)=10.99, p<.001$ ]、および繰り返し変数の4種類の待遇表現 [ $F(3,1779)=14.08, p<.0001$ ]に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。各待遇表現について、男女差をダンカン法で比較すると、「行くの」および「いらっしゃるんですか」について、女性の方が男性よりも適切度が高かった。4つの待遇表現について直交多項式対比で比較した結果、すべての表現間に有意な違いが見られた。個々の表現について見ると、最も適切度が高かったのは「行くんですか」(M=3.81)である。

表2 親しい間柄の女性発話者が用いた待遇表現についての男女別適切度

発話者	被調査者の性別	待遇表現			
		いらっしゃるんですか	行かれるんですか	行くんですか	行くの
年下の外国人	男性(n=271)	3.27 (1.39)	3.58 (1.23)	3.73 (1.08)	3.39 (1.30)
	女性(n=324)	3.57 (1.38)	3.77 (1.22)	3.87 (1.10)	3.68 (1.26)
	男女の合計	3.44 (1.40)	3.68 (1.22)	3.81 (1.09)	3.54 (1.29)
年上の外国人	男性(n=271)	3.26 (1.39)	3.52 (1.28)	3.84 (1.07)	3.74 (1.22)
	女性(n=324)	3.34 (1.49)	3.58 (1.34)	3.93 (1.12)	4.03 (1.16)
	男女の合計	3.30 (1.45)	3.55 (1.31)	3.89 (1.10)	3.90 (1.20)
年下の日本人	男性(n=271)	3.29 (1.40)	3.54 (1.30)	3.35 (1.24)	2.79 (1.44)
	女性(n=324)	3.49 (1.42)	3.76 (1.21)	3.56 (1.22)	3.07 (1.38)
	男女の合計	3.40 (1.41)	3.66 (1.26)	3.46 (1.24)	2.94 (1.41)
年上の日本人	男性(n=271)	3.21 (1.44)	3.38 (1.35)	3.58 (1.23)	3.53 (1.36)
	女性(n=324)	3.09 (1.50)	3.35 (1.41)	3.73 (1.20)	3.95 (1.24)
	男女の合計	3.14 (1.47)	3.36 (1.38)	3.66 (1.22)	3.76 (1.31)

注: 括弧外は平均値で、括弧内は標準偏差。

2番目は「行かれるんですか」(M=3.68)である。3番目に適切度が高かったのは、「行くの」(M=3.54)である。最も適切度が低かったのは「いらっしゃるんですか」(M=3.44)である。発話者が年下であるためか、親しい間柄であっても待遇価値の低い言い方はあまり好まれないようである。また逆に、高すぎる表現は、年下であっても親しい間柄では支持されないようである。

### 3-3-2 親しい外国人女性発話者が年上である場合の適切度

適切度についての2×4の分散分析の結果、男女差に主効果は見られなかった。4種類の待遇表現 [  $F(3,1779)=46.29, p<.0001$  ] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。従って、待遇表現についてのみ直交多項式対比で、詳細に考察すると、4つの待遇表現の中で最も適切度が高かったのは、「行くの」(M=3.90)、次いで「行くんですか」(M=3.89)であるが、この両者の表現には有意差はない。3番目は、「行かれるんですか」(M=3.55)であり、最も適切度が低かったのは、「いらっしゃるんですか」(M=3.30)である。これらの各表現には有意差が見られた。発話者の外国人女性が親しい間柄で、しかも年上であれば、「行くの」や「行くんですか」という待遇価値の低い表現が好まれるようである。

### 3-4 外国人女性が親しい間柄で用いた待遇表現に対する日本人の寛容度

3-2の「初対面」の場合と同様に、4つの待遇表現に対する平均寛容度を算出し、発話者が年下および年上の場合について図2にグラフで示した。

#### 3-4-1 親しい外国人女性発話者が年下である場合の寛容度

同様の分散分析の結果、男女差に主効果は見られなかった。繰り返し変数の4つの待遇表現 [  $F(3,1779)=44.85, p<.0001$  ] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。男女差が見られないので、待遇表現についてのみ考察する。図2から分かるように、すべての待遇表現について寛容度はプラスであった。直交多項式対比で各待遇表現を比較した結果、4つの表現の中で最も寛容度が高かったのは「行くの」(M=0.60)である。2番目に寛容度が高かったのは「行くんですか」(M=0.34)である。3番目は、「いらっしゃるんですか」(M=0.04)である。最も寛容度が低かったのは「行かれるんですか」(M=0.02)である。この3番目と4番目の2つの表現は、いずれもゼロに近く、有意な違いもない。つまり、親しい年下の女性であれば、日本人であっても外国人であっても、比較的待遇価値の高い表現を用いることに対する適切度はほぼ同じであり、その差である寛容度に違いが見られなかった。

注: 数値は、寛容度の平均および±は標準偏差を示す。

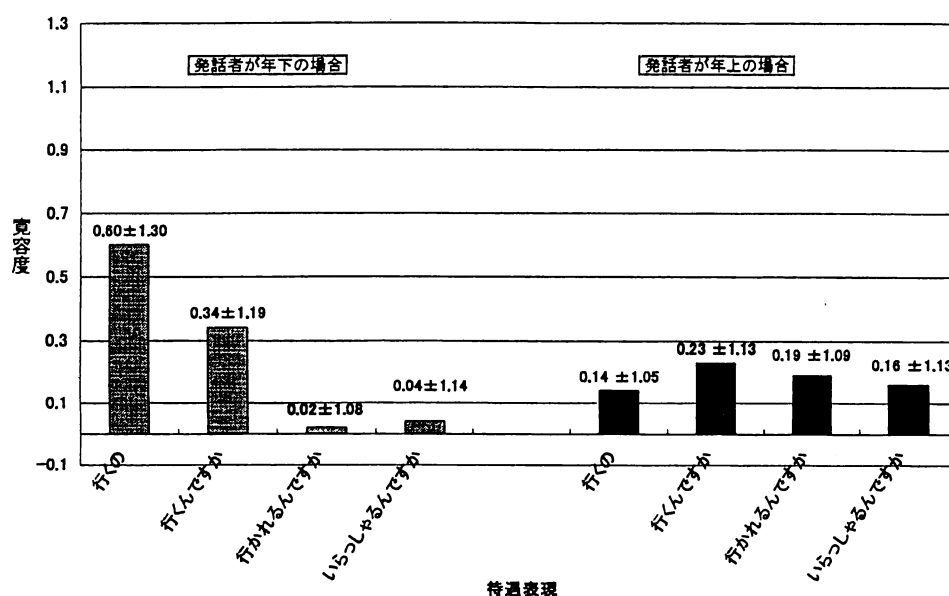


図2 親しい年下および年上の外国人発話者が用いた待遇表現に対する寛容度

### 3-4-2 親しい外国人女性発話者が年上である場合の寛容度

同様の分散分析の結果、男女差および待遇表現のいずれの主効果も有意ではなかった。しかし、待遇表現と男女差の間 [ $F(3,1779)=4.26, p<.01$ ] に有意な交互作用が見られた。各待遇表現の男女差をダンカン法による多重比較で検討すると、「いらっしゃるんですか」でのみ、女性の方が男性よりも寛容度が高かった。さらに、4つの待遇表現について直交多項式対比で検討した。その結果、「行くの」の寛容度( $M=0.14$ )と「行くんですか」( $M=0.23$ )の間には有意差が見られたが、「行くんですか」と「行かれるんですか」( $M=0.19$ )の間および「行かれるんですか」と「いらっしゃるんですか」( $M=0.16$ )の間には有意差がなかった。つまり、「行くの」以外の寛容度はすべて同じだということである。

## 4. おわりに

本研究では、「初対面」と「親しい間柄」の2つの場面で、年下と年上の外国人女性を用いた4種類の待遇表現を、広島・岡山・山口の中国地方3県に在住する日本人がどう受け取るかについて、5段階評価で「適切度」という観点から検討した。さらに、外国人発話者の用いた待遇表現に対する適切度を、日本人発話者の場合と比較して「寛容度」を算出し、違いを考察した。すべての分析の結果から、特に次の3つの点について興味深い傾向を見出した。

まず第1に、文化庁(1995)の調査でも示されたような、外国人であれば多少変な日本語でもかまわないという日本人の一般的な態度は、本研究では図1で示した「行くの」という表現についての「寛容度」の高さに顕著に現れた。一般的な認識として、「初対面」で相手に「行くの」という表現を用いるのは、待遇表現運用上、不適切であろう。もちろん、本研究の年下の外国人女性が使った場合でもやはり不適切だという結果であった。しかし、その表現を外国人女性が使った場合の寛容度は、他の表現と比べて最も高い。これは、外国人に対しては日本語の適切な待遇表現使用を期待しないため、非常に高い寛容度を示したのであろう。

第2に、「初対面」であるか「親しい間柄」であるかという場面、また年下・年上の違いに拘わらず、本研究でとりあげた中で待遇価値の最も高い「いらっしゃるんですか」という表現は、日本人女性と同様にこれを外国人女性を用いる場合にも、最も適切な表現とは被調査者の日本人には受け取られなかった。つまり、仮に外国人が待遇価値の高い「いらっしゃるんですか」という表現を覚えて、本研究で設定したような場面で使っても、実際には「行かれるんですか」の方が少なくとも中国地方在住の日本人には受けが良く、「いらっしゃるんですか」は場合によってはかなり違和感を与えてしまうことになるという結果であった。中でも、親疎関係で言えば最も「疎」でありかつ年下であるため、かなり待遇価値の高い表現が求められる「初対面の年下」の発話者の場合でも、「いらっしゃるんですか」が最も適切な表現とは聞き手には受け取られていないことは注目に値するであろう。これを逆に発話者の側からみると、異なった結果となっている。荻野ら(荻野・金・梅田・羅・盧, 1990)は大学生を対象に、「これからあなたはどこへ行くか」とたずねる設定で調査を行った。その結果、最も丁寧な表現で待遇するのは「大学の先生」と「50歳の初対面の人」であり、どちらも「いらっしゃるんですか」という待遇価値の極め



て高い表現が最も多用された。大学生を対象とした調査ではあるが、この調査の「50歳の初対面の人」から見ると、発話者である被調査者は本研究の「初対面の年下」の発話者に相当すると思われることから、話し手側から見て適切だと思う待遇表現と、聞き手側からみたそれとの間にズレがあるとも考えられよう。

さらに第3に、ぞんざいであると思われがちな「行くの」という表現が、「親しい年下」の外国人女性が用いた場合に、「いらっしゃるんですか」よりも適切であると判断された。これは、『敬語』を使うことで配慮し、尊重しようとするのと、『敬語』を使わないことで配慮し、尊重しようとするのは、それほど矛盾したことはない。」という話し手の立場に立った指摘(蒲谷・川口・坂本, 1998, p.230)と同質のもので、聞き手の立場から見ても、「敬語」を使わないで話しかけられる方が、親愛の情を示されているようで好まれる場合があるということを示している。そう考えると、待遇表現は、単に社会的な上下関係や立場といった社会的ファクターによって使い分けられているのではなく、話し手と聞き手との間の心理的距離感(宇佐美, 1998)を含んだものと考えの方が適切であろう。現代の待遇表現の使用には、社会的な上下のファクターだけでなく心理的なファクターも深く関わっており、社会的ファクターはむしろ相対的に弱化に向かう傾向にあると言われている(菊地, 1997)。しかし厳密には、このような待遇表現の使い分けは、待遇意図(菊地, 1997)をもった話し手の立場から見たものである。今後は、さらに聞き手の側から見た待遇表現の研究が必要になってくるであろう。

## 引用文献

- (1) 文化庁文化部国語科(1995)『国語に関する世論調査平成7年4月調査』大蔵省印刷局
- (2) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店
- (3) 菊地康人(1997)『敬語』講談社学術文庫
- (4) 水谷信子(1989)「待遇表現指導の方法」『日本語教育』69, 24-35.
- (5) 森敏昭・吉田寿夫(1992)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房
- (6) Niyekawa, A. M. (1991) *Minimum essential politeness: a guide to the Japanese honorific language*. Kodansha International.
- (7) 荻野綱男・洪珉杓(1992)「日本語音声の丁寧さに関する研究」『日本語イントネーションの実態と分析』科学研究費報告書
- (8) 荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧頭松(1990)「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』136, 1-51
- (9) 立松喜久子(1989)「外国人学習者の待遇表現のレベルの適正さについて」『日本語教育』69, 36-46.
- (10) 辻村敏樹(1989)「待遇表現(特に敬語)と日本語教育」『日本語教育』69, 1-10.
- (11) 宇佐見まゆみ(1998)「ポライトネス理論の展開: ディスコース・ポライトネスという捉え方」『日本研究教育年報(1997年度版)』東京外国語大学, 145-159  
(宮岡-広島大学大学院国際協力研究科大学院生, 玉岡・浮田-広島大学留学生センター)